



# GOVERNOR'S MONTHLY LETTER



会長・幹事殿



## Contents

- |    |                                      |    |                      |
|----|--------------------------------------|----|----------------------|
| 02 | ガバナーメッセージ                            | 17 | 他地区の地区大会に参加して③       |
| 04 | 「水と衛生」月間によせて                         | 18 | 当地区の取り組み発表のご報告       |
| 05 | 第 2590 地区の更なる活性化を願って<br>…パストガバナーリレー⑧ | 20 | 第 2590 地区ローターアクトニュース |
| 06 | パキスタンでの<br>ポリオワクチン投与活動に参加して          | 21 | 地区同好会紹介⑧             |
| 08 | ロータリー財団奨学生四半期報告                      | 22 | 新会員のご紹介／訃報           |
| 12 | 地区活動報告（2026年1月・2月）                   | 23 | 地区研修・協議会のご案内         |
|    |                                      | 23 | 第 61 回ロータリアン展作品募集    |
|    |                                      | 24 | 2026年1月会員数報告（RC・RAC） |

音楽同好会

よいことの  
ために  
手を取りあおう

2025-26年度RI会長メッセージ



## 水と衛生月間

国際ロータリー第2590地区ガバナー 大塚 正一

小学生の頃、3つ年下の弟と家の前の道で遊んでいた時のことです。遊び疲れて喉が渇き、弟に水を汲んでくるように頼みました（命令した?）。弟は家に入り、コップに水を一杯汲んで持って来てくれました。ただ、一杯では喉の渇きがおさまらず、「もう一杯汲んで来て!」と頼みました（これも、命令した?）。一杯目と違い、コップの外側が少し濡れているし、中の水もなんか変な色をしていました。でも、まあ問題ないかと飲んだら、半分くらい飲んだ時に酷い違和感を覚えました。「この水、どうした?」と弟に聞いたら、弟が逃げ出しました。追いかけて捕まえ、白状させたら「庭の池の水!」でした。慌てて台所まで行ってうがいをしましたが、もう既にコップの水の半分はお腹に入っていました。幸い、特に体を壊すようなことはありませんでしたが、親に報告すると、母親は笑って「貴方が弟を子分みたいに使うから悪いのよ。自分で飲みに行けばよかったですよ」と逆に注意されたのは私の方でした。「水と衛生」と聞いて、思い出すのはこの弟との一件です。そうです、50年以上前でも、我々日本人は池の水を飲むようなことは考えられませんでした。しかし、世界では現在でも池の水、たまり水、汚い川の水を生活用水としている人々が大勢います。今月はこのことをロータリアンとして真剣に考える月間です。

ユニセフの報告によると、現在世界では

- ① **22億人**が、安全に管理された飲み水を使用できない。このうちの**1億1,500万人**は湖や河川、用水路などの未処理の地表水を使用している。
- ② **34億人**が、安全に管理された衛生施設（トイレ）を使用できない。このうちの**4億1,900万人**は、家や近所に利用できるトイレがなく、道ばたや草むらなど、屋外で用を足す、屋外排泄を行っている。



小学校のトイレ



小学校の校門前



難民キャンプ

③ 20億人が、石けんや水の備わった手洗い設備が家がない環境で生活している。

とのことです。

(出典：ユニセフ・WHO 報告書「家庭と水と衛生の前進 2000～2022年：ジェンダーに焦点を当てて」)

この①飲み水、②トイレ、③手洗い設備のすべてに同時に対応できない場合は、どこから始めるのがベストなのでしょう。やはり①から始めて、②、③と進めていくのが良いように感じられます。安直に貧しい地域に行くと、井戸を掘っても、周りの土壌が汚染されていれば、すぐにその井戸は汚染水の溜まり場となってしまいます。非常にお金はかかりますが、浄水設備の建設が今一番急がれる課題だと思います。実際、日本のロータリアンによってパキスタンには2つの浄水施設が建設されています。



このような活動が継続されることを期待します。「えっ、自分は何かしないのか？」と私に問う声が頭の中で聞こえてきます。とても一人ではこんな大きなことはできませんが、皆様と一緒にあれば可能です。そのためにロータリー財団は存在しています。大いに協力していきましょう。

(写真は、すべて横浜港北 RC・亀ヶ谷純子会員の提供、2024年パキスタンにて撮影)

# 「水と衛生」 月間によせて

地区ロータリー財団委員長 鈴木 慎二郎 (川崎マリーン)



3月は国際ロータリーが定める『水と衛生』の特別月間です。国際ロータリーは発信しています。安全な水と衛生設備の利用は、すべての人がもつべき権利。なのに、汚染水で病気になる人や命を落とす人が後を絶ちません。未来を担うはずの子どもたちは、水汲みなどの労働によって学校に通えず、つらい境遇を強いられています。私たちの活動は、井戸を掘るだけではありません。安全な水と衛生設備を提供した上で、衛生や伝染病予防に関する教育も行うことで、コミュニティ全体の生活を改善し、子どもたちの就学率を高めています。

世界では水道インフラが整備されておらず、必要な時に安全な水を利用できない、トイレの普及率が著しく低い、などの国や地域が多く存在します。約21億人以上が安全な水道設備のない生活をしており、人口比率では約4人に1人が該当するのです。

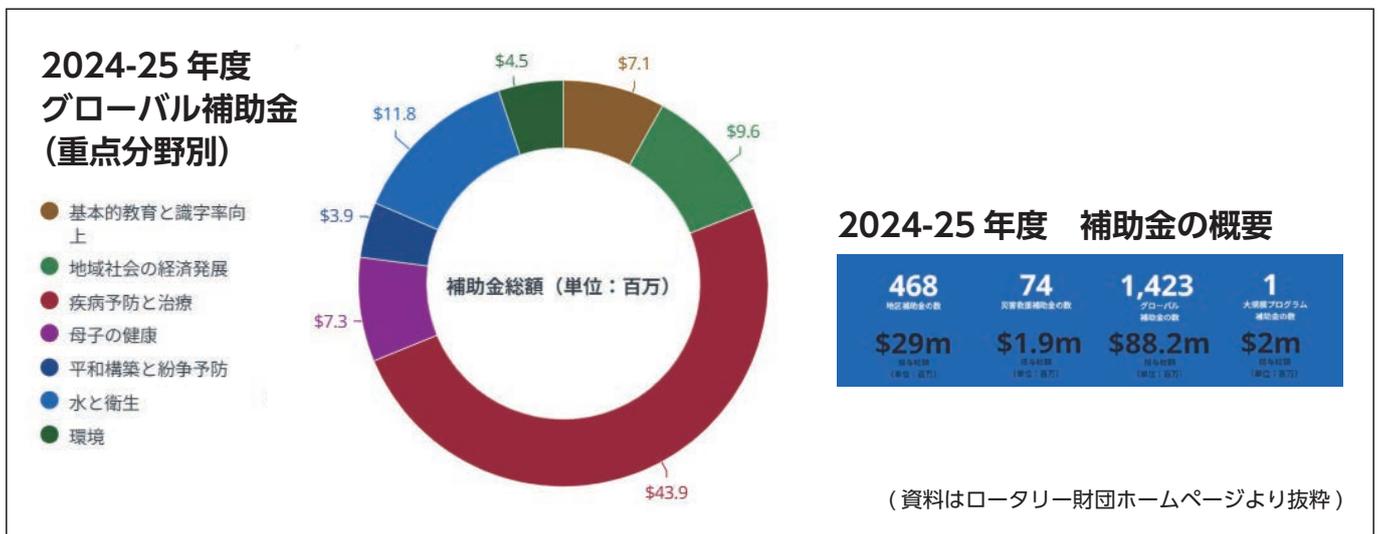
「水と衛生」の問題は経済的困窮や紛争など様々な障害により整備や普及が困難となっています。そしてその状況が続けば健康被害に著しい影響を及ぼすほか、教育の普及、経済活動の発展、新たな紛争勃発など多くの問題を引き起こす原因となっています。いわゆる負の連鎖となりうるのです。

これらはまたロータリーの最優先事項であるEND POLIO NOW～ポリオ根絶にも大きく関わっています。衛生状態が悪い地域ではポリオウイルスは感染者の排泄物により下水を通じて迅速に拡大します。これらを止めるには水と衛生に関わるインフラの整備が何よりも求められているのです。特に水を介する疾病を防ぐための浄水フィルターは大きな効果が得られています。

ロータリーの重点分野は「水と衛生」を含めて7つ。他に「母子の健康の改善」、「教育の支援」、「地元経済の成長」、「疾病との闘い」、「平和の推進」、「環境の保護」となります。ロータリー財団はグローバル補助金を通じてこれらの分野に関わるプロジェクトを支えています。2024-25年度に実施されたプロジェクトは1,423件、金額にして88.2M米ドル(136億円弱)が使用されています。「水と衛生」はグローバル補助金の内訳では「疫病との戦い」に次ぐ2番目に多い支援目標となっています。それだけ世界でも大きな問題となっているのです。

今も雨水貯水に頼る生活を余儀なくされたり、学校のトイレがなく、帰路に着くまで我慢をしてしまう子供たちがいることを私たちは知らなければなりません。まず関心を持ってもらうこと、そして何ができるかを考えること。最後に行動すること。これが私たちにできることではないでしょうか。

水道からの水が直接飲めるのは日本を含めたたった12か国(約6%)であるといわれています。私たちはこの奇跡の恵みに感謝しつつ、私たちに無理なくできることを永く続けていきたいと願っています。ロータリアンの皆さん、これからもロータリー財団へのご協力を切にお願い申し上げます。





### 今こそ、ロータリーを語ろう

第2590地区パストガバナー 轟 淳次 (川崎マリーン)

私がロータリーに入会したのは今から33年前でした。当時のロータリアンはロータリーに対する確固たる思いをそれぞれ皆が持っていたように思います。先輩方も多くの教を我々新会員に向けて話してくれましたし、仲間同志では時には口角（こうかく）泡を飛ばすではないですが、熱い議論を交わすほど、ロータリー談義に花を咲かせたものです。いつからでしょうか？ロータリーを語ることが格好の悪いようなそんな空気感が蔓延してしまったのは…

言い換えればロータリーを語れなくなった会員がとて増えてしまったということでしょう。せっかく入会したロータリーを知ろうともせず、語ることもなく、ただ例会を過ごすことと、ロータリアンとしての矜持をもってロータリー活動に時間を費やすことには大きな違いがあります。支払う会費は同じでも、自らのうちに残るものは圧倒的に後者にあるのです。ロータリーを知ること、語ることは決して格好の悪いことではありません。むしろ長くバッジをつけていても、ロータリーのことはわからない、知らないと思われずに言ってしまう会員の姿勢にこそ問題があるのです。ロータリーを知ること、学ぶ方法はいくつもあります。その最たるものが『ロータリーの友』誌や『マイロータリー』であり、ラーニングやRLIなのです。特にRLIには非常に可能性を感じています。世代を超えて一つのテーマについて自らの考えを互いに話し合う。そこには純粋にロータリーを語り、楽しむ時間があります。クラブを越えて顔見知りになり、友人となるきっかけも与えてくれるのです。

私の年度（2019-20）ではそれまで開催してきたIMを取りやめて、年2回のRLIを企画しました。残念ながら未曾有の惨事となったコロナ禍によってその企画は半ばまでしか達成できませんでしたが、今再び、RLIは学び、語りの場として求められ始めています。

当地区は変革の時を迎えています。大塚ガバナーをはじめ若きリーダーがこの地区を更なる高みへと導こうとしています。何世代かのリーダーが共に力をあわせ、継続性をもって新たな第2590地区へと生まれ変わろうとしています。そしてそのために大切なことは、リーダーが決断をし、示す方向に舵を切ったのならば、地区は一丸となってそこへつき進むということです。地区役員や各委員会活動もそれぞれの経験、歴史は大切ですが、従来のやり方に固執しすぎれば、今以上の進歩はありません。大きな会議やイベントを実施しても、その情報が共有されなければ何の意味もありません。今求められているのは、自らの置かれているそれぞれの役割・意味を常に自問自答すること、そしてそれを地区活動に活かすことなのです。そしてこれはクラブ運営でも全く同じことが言えるのです。時間は黙っていても過ぎ去っていきますが、行動することでその時間は歴史となり、永遠に語られるものになります。新たな第2590地区を皆で語り、皆で盛り上げていきたいと考えます。ロータリアンとしてロータリーの話は今こそ、語ろうではありませんか。

# パキスタンでのポリオワクチン投与活動に参加して

国際ロータリー第 2590 地区ガバナーノミニー 谷川 公一（横浜西）

1月24日から28日にかけての5日間、チームポリオジャパンのパキスタンにおけるポリオワクチン投与活動に参加する機会をいただきました。現地での数日間の体験は、これまで私が抱いていた「ポリオ根絶活動」という言葉の意味を、現実の重みをもって捉え直す時間となりました。

現在、世界で野生型ポリオウイルスが常在している国は、パキスタンとアフガニスタンの二か国のみです。2025年時点の報告では、アフガニスタンで10症例、パキスタンで31症例が確認されています。しかし、パキスタン北西部の国境地帯、特にカイバル・



パクトゥンクワ州では反政府活動の増加により、十分な調査や接種活動が困難な地域もあり、実際の状況は数字以上に厳しい可能性があるとの指摘もありました。

私たちが主に活動したのは南部の都市カラチとその周辺です。初日は、カラチからハイドラバードへ向かう急行列車の車内でのワクチン投与活動に同行しました。警察の厳重な警護のもと、列車の先頭車両から順に各座席を回り、現地スタッフとともに乗客一人ひとりに声をかけていきます。限られた約3時間の活動ではありましたが、その間にも多くの方へワクチンを投与することができました。こうした列車内での投与は毎日続けられていると聞き、地道な努力の積み重ねを強く実感しました。

現地では、ワクチン接種に対する拒否が依然として大きな課題です。パキスタンでは現在およそ半数が接種を拒否している一方、隣国アフガニスタンではタリバン政権の協力姿勢により接種率が大きく向上し、集団免疫の目安とされる約6割に近づきつつあります。この対照的な状況は、医療や公衆衛生が政治・社会情勢と密接に関わっている現実を強く印象づけるものでした。

二日目には、カラチ北部の高速道路外側に広がる居住エリアを訪れました。テントや簡易的な住宅で暮らす人々が多く、衛生環境は十分とは言えません。ロータリーでは、1基で約3,000人に安全な水を供給できる浄水器を設置し、それをきっかけとしてポリオワクチンの重要性を伝え、接種へとつなげています。ワクチンだけでなく、「水」という生活に直結する支援と組み合わせることで、住民の理解と信頼を得ようとする取り組みは、非常に現実的で効果的だと感じました。

また、母子センターやリソースセンターの視察も行いました。一見すると中流家庭が多い地域であっても、安全とは言えない水を日常的に使用している現状があります。今後は、各地区にこうしたリソースセンターを設置し、ワーカーの育成や母子支援の拠点としていく必要性を強く感じました。現地では約26万人のワーカーが活動しており、その人件費だけでも年間で約655億円にのぼります。ポリオ根絶が、いかに大規模な国際事業であるかを、改めて実感しました。

三日目には、病院機能を併設した母子センター周辺や、アフガニスタンからの避難民が暮らすテント集落での活動に参加しました。国境を越えて人が行き交うこの地域では、ポリオ対策もまた国境を越えた連携が不可欠です。山岳地帯への重点的なキャンペーンが今後も続けられると聞き、困難な地域であっても決して諦めずに活動を続ける姿勢に、深い敬意を覚えました。

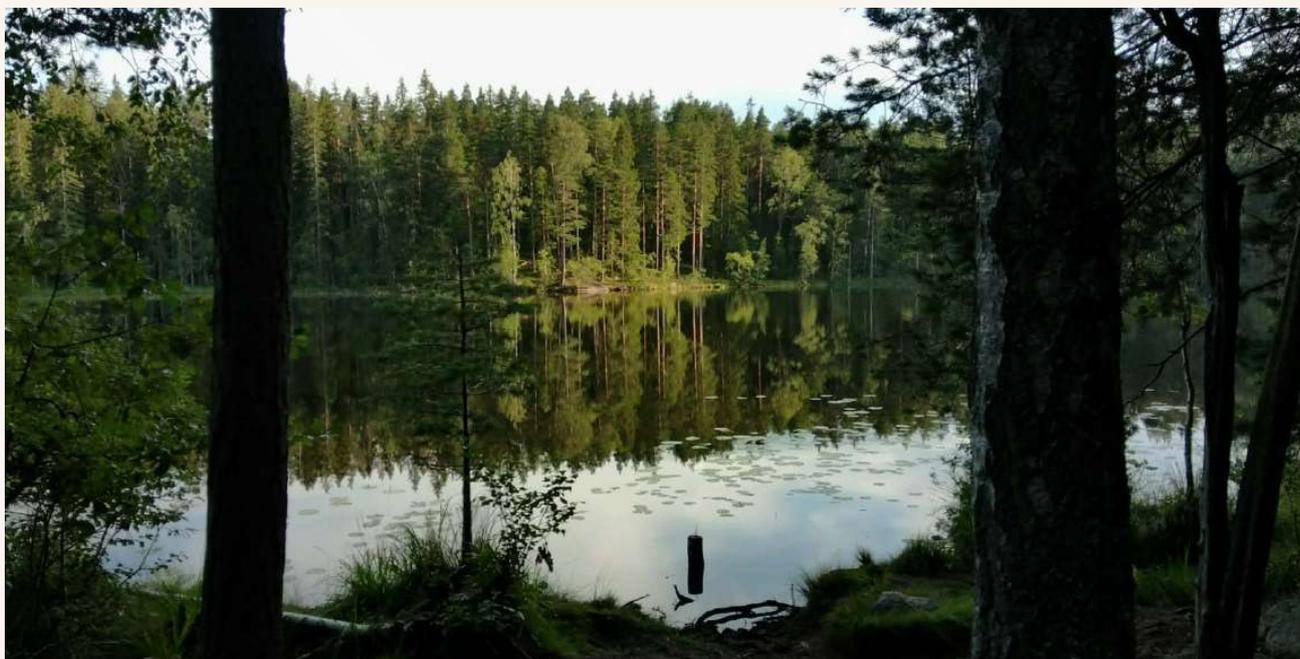
今回の訪問を通じて私が最も強く感じたのは、「これはロータリーでなければできない活動だ」ということです。長年にわたり現地の人々と信頼関係を築き、行政や国際機関、地域社会をつなぎながら粘り強く続けてきたからこそ、今日の活動があります。目の前の子どもにワクチンを投与する一瞬の行為の背後に、数え切れない人々の努力と時間、そして信念が積み重なっていることを、現地で肌で感じました。

ポリオ根絶は、決して遠い国の出来事ではありません。一人でも多くの子どもを守るために、私たち一人ひとりがこの活動を理解し、支え続けることの大切さを心に刻んだパキスタンでの経験でした。



2025-26 年度 国際ロータリー第 2590 地区奨学生 山下 夏奈

(横浜あざみ RC / District 1420 Helsinki Munkkiniemi RC)



↑ 8月、ヘルシンキから電車で1時間程の距離にあるヌークシオ国立公園にてキャンプをしたときの湖の様子。

## ご挨拶

皆様、ご無沙汰しております。フィンランド ヘルシンキ大学 教育科学修士課程に在学中の山下夏奈です。早くも渡航から3カ月が経過し、気温も氷点下となっておりますが、様々な挑戦と多種多様な人との出会いを重ね、大変充実した日々を送っております。10月にお会いしたホストロータリークラブの皆様をはじめ、日本でも見守ってくださるロータリアンの皆様には感謝してもしきれません。今回の報告書では、9月~11月の活動について、少しでもご共有できればと思います。



↑ 建物と街が融合する教育科学部棟。



フィンランドの伝統的な学生パーティー(SitSit)。いつも一緒に勉強する3人で。↑



## ホストロータリークラブとの出会い

9月下旬、ホストRCの定例会にてご挨拶後、なんと10月、フィンランドの学校見学ツアーを企画して下さりました。ホストRCの皆様にとって初めての留学生の1年先輩、大阪RCからのグローバル奨学生 本同さんと私のために企画して下さったとのこと、大変嬉しく思います。訪問先は、ロシアとの国境近く、東フィンランド。ロータリアンKaisuさん、ご友人 Sannaさん、Joutseno RCのUllaさんが、Joutsenoの小中学校、サステナビリティで有名な LappeenrantaのLUT大学を案内して下さりました。Saimaa湖に囲まれ小さくも美しく、のびのびとした雰囲気のある町を車で案内もしていただき、大変貴重な機会となりました。

### 東フィンランドへ

当日朝6時、ロータリアンのKaisuさんと中央駅にて集合後、お話ししながら2時間半電車に乗り、Joutsenoへ。SannaさんとUllaさんと合流し、“I love Joutseno”と書かれた暖かい靴下をお土産にいただきました。私も、2590地区の横浜バッチをお渡ししました！



### Lappeenrantaへ

その後、隣の町へ移動。ランチ中に日本を離れ暮らすことや将来の話をしました。Sannaさんの「親は子供に旅をさせることがbitter sweetなのだ」という言葉がその時の私にとっても響きました。大学内を案内していただいた後は町の一番古いカフェでお茶を。また夏にもこの町に戻ってくることを誓い、お別れをし、夜8時にヘルシンキへ戻りました。



### Joutseno小中学校

少しJoutsenoの町を車で案内いただいた後、小中学校を訪問。学校事務長の方に質問をしながら見学することができました。地元の学校機能集約化の動きで建物は新しく、先生たちが集まり、地域の方にヒアリングしながら、建物の構造から家具までデザインをしたとのこと。日本とは異なり、家を想像させるカラフルで柔らかな建物の雰囲気、グループワークがしやすいように作られた丸形台形の机、廊下にあるインデペンデントスタディ用のソファ、そして音楽室にはフィンランドの伝統楽器カンテレ、ピアノ、ドラムなど様々な楽器が10台以上ありました。全てが自分が経験してきた日本の“学校”と異なり、とても驚きました。



## 学業・学業外の活動



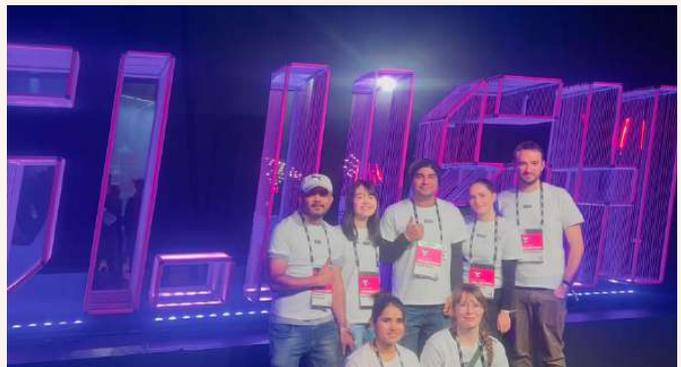
9月からスタートしたプログラムでは、フィンランドをはじめ、パキスタン、ナイジェリア、ドイツ、中国、アメリカなど多種多様な国から、元教師、元作家、元教育省など様々なバックグラウンドを持つ人々に囲まれています。どのようにして社会にインパクトを与えられるか、ディスカッションやグループワークを通して話し合います。正直、グループワークへは沢山の準備と自分が何を言いたいかということをはっきりさせる必要があります、とても苦労していますが、周りの考え方の深さや培ってきた専門性に圧倒され、良い影響を受けながら成長できているのではないかと考えています。



(右側写真について) 学業外で、現地の日本語補習校や母語教室で週に1~2回ボランティアをしています。学校に通っているのはハーフの子どもたちで日本語を話すレベルもそれぞれ。最初はあまり話してくれなかった子が単語でも答えてくれるようになったり、たまに文章で答えてくれたり、子どもたちの反応にこちらが学ぶことが沢山あります。



プログラムの1年生・2年生でインターナショナルディナーを開催。各々の国の料理を作り投票。1位はインドネシアチームでした。こんなにも様々な料理が地球上に存在すること、そしてそれを介して会話が弾み、食べ物はどんな人をも繋ぎ、世界共通で人を幸せにすることを改めて感じました。



11月の一番大きなイベントはヘルシンキ発のスタートアップイベントSLUSHでのボランティア活動でした。（起業家と投資家、パートナーがヨーロッパ内外から集まり、ネットワークを広げ、未来に向けてアイデアをシェアするヨーロッパで最大規模のイベント。2025年の参加スタートアップ企業は6,000社、投資家やエコシステムビルダーは3,500人、ボランティアは1,600人。）会話と熱気に溢れた言葉では言い表せない環境の中、誘導したり質問に答えたりと会場運営のサポートを、大学外の人々と一緒に行いました。日本からも来訪者が多々おり、たくさんの出会いから刺激をもらいました。

## 最後に

学校・生涯学習に関する専門知識を増やすとともに、様々な出会いから人生、そして将来の夢に大事な言葉や概念に出会っています。これからも自分の将来と、子どもたちが自分らしく生きられる世界がどのように達成されるか、試行錯誤を重ねながら一日一日を大切に過ごしていきたいと思います。引き続きのご支援の程、何卒宜しくお願い申し上げます。

# 地区活動報告（2026年1月・2月）

## ● 第57回インターアクト年次大会報告

地区インターアクト委員長 下中 英輝（横浜緑）

令和8年1月11日に第57回インターアクト年次大会を桐蔭横浜大学内にて開催いたしました。

当日はインターアクター163名、顧問教諭22名、ロータリアン51名、ローターアクター11名、合計247名と、年始にも関わらず大勢のご参加を頂きました。今回は大会のテーマとして「フードロス」を掲げ、講師として国連WFP協会の谷川真理様、合同会社ハウ斯拉ボの浜田雄太様、2名の方に講演をお願いいたしました。講演では世界各国で貧困に悩み苦しむ人々のお話や、国内での不作で余った野菜などの活用方法についてお話しいただきました。

その後、別教室にてインターアクター、ローターアクターを20数グループに分け、基調講演のお話を基に、これからの活動に生かせるようグループ討論してもらい、各校ディスカッション報告と現在の活動実績、計画を発表してもらいました。学生たちの思考の広さには本当に驚かされ、感銘を受けました。学生達にも良い勉強になり、また、様々な高校の生徒との交流もできたと思います。今回成功裡に終わったのも、幹事校のクラーク記念国際高等学校青葉キャンパス並びに協力校として桐蔭学園高等学校の生徒達、そして提唱クラブの川崎北RC、横浜あざみRCの皆様、その中でも主軸で動いて下さった横浜あざみの境様方のお蔭です。本当にありがとうございます。これからのインターアクトに対するご協力をお願いし、年次大会のご報告と致します。



国連 WFP 協会 谷川真理様



合同会社ハウ斯拉ボ 浜田雄太様



インターアクト年次大会集合写真

## ● 第3回次年度ガバナー補佐研修会報告

地区ラーニング委員長 露木 雄二（横浜瀬谷）

1月26日に第3回目のガバナー補佐研修会を実施致しました。

はじめに大塚ガバナーより、「年度後半となり徐々に顔合わせや意思疎通を図って参りたいと考え、次年度地区副幹事も集まっていただきました。次年度の地区方針についても醸成していただければと思います。」と話がありました。宮田彰久ガバナーエレクトからは国際協議会での研修を終えて、正式に次年度ガバナーに承認された旨の報告がありました。次年度RI会長メッセージ「CREATE LASTING IMPACT 持続可能なインパクトを生み出そう」の言葉にあるように自分を変えられれば、クラブと地区を変えていけること、また合わせて地区方針・活動計画の方針が伝達されました。青木理次年度地区幹事からは地区副幹事の役割についての説明があり、各々の担当の業務内容やフロー等について、情報共有しました。研修は「ガバナー補佐にして欲しいこと、して欲しくないこと」と題して、各次年度ガバナー補佐に質問形式で行いました。総評では、宮田エレクトより、もうすでに次年度がスタートしたと意識して次年度を迎えられるように今から準備を進めるように指示がありました。

本日の研修を通じ、次年度の活動が充実したものとなることを祈念し、結びとなりました。



## ● 今年度の RLI 卒後コースを終えて

地区 RLI 委員長 半澤 剛 (川崎北)

2月8日(日)に聖光学院で開催された RLI 卒後コースに、37名の方にご参加いただきました。

大塚ガバナー、川野パストガバナー、宮田ガバナーエレクト、桑原地区職業奉仕委員長から基調講話を頂き、4つのセッションテーマ(ロータリーの歴史、理念、新しいロータリーの流れ、クラブを元気に!)を楽しく、レベルの高い学びの場として、終えることができました。

懇親会の席で、2人の地区 RLI 副委員長から嬉しい話がありました。「学ぶことが、こんなに楽しく、ロータリーが、人生哲学実践の場(超私の奉仕が、必ず報いられる出会いがある場)であることを感じました」と松田孝子副委員長。また、角井幸一副委員長は「FT を初めて経験して、経験という実践から学ぶことの重要性を教えられました」といずれも、実践してみて「学ぶ」ということの大事なことを再認識しておられました。まさに、リスキングの体験でもありました。今期の修了証書を手にした方は、昨年の僅か3名に対して、12名です。前年度末で、退会者を除いて139名、今期の方々を加えて現在151名が RLI を修了した事となります。この数字は、当地区会員数の10%にも達しません。当地区の「学ぶ」ことに対する希薄さを如実に表している残念な姿です。RLI は、ロータリーを学び語り合う最高の「場」であり、「草の根運動」を一層育てるためにも、更なる挑戦を次年度の山田正憲委員長に託したいと思います。

最後に、大塚ガバナー、川野パストガバナーのご指導、フォローに感謝をしつつ、今期の振り返りといたします。



## ● 2025 学年度米山奨学生終了式報告

地区米山学友委員 花上 哲也 (横浜瀬谷)

2月15日(日)ホテルプラムにて、2025 学年度米山奨学生終了式が行われました。今年度の奨学期間終了生30名のうち1名が残念ながら欠席でしたが、その他に各世話クラブのカウンセラー、地区関係者、米山学友会、総勢96名と多数のご参加を得て開催する事ができました。

各奨学生には、大塚正一ガバナーから奨学期間終了証が、カウンセラーには小野邊薫米山記念奨学委員長から感謝状が授与され、奨学生の指導教官である鶴見大学歯学部歯学科助教 伊東宏和様から来賓祝辞を頂きました。米山奨学生を代表して、姚 璐清さん(世話クラブ:横浜 RC)と梁 秦榮さん(世話クラブ:川崎 RC)が謝辞を述べられましたので、下記によりご紹介させていただきます。その後歓送会が行われ、各世話クラブ毎に奨学生とカウンセラーと一緒に壇上に上がり、それぞれ一言コメントを頂きました。

### ● 2025-26 年度米山奨学生代表 姚 璐清 (ヨウ ロセイ) さん

「米山奨学金を通して多くの温かい出会いと支えをいただき、学業と創作に向き合う力を得ました。映画美術を通じ、人の心に寄り添う作品作りを目指していきます。」

### ● 2024-26 年度米山奨学生代表 梁 秦榮 (ヤン ジンヨン) さん

「皆さまから賜りましたご厚情に深く感謝し、今後も誠心誠意努めてまいります。」



姚璐清 (ヨウ ロセイ) さん



梁秦榮 (ヤン ジンヨン) さん



## ● 横浜南ロータリークラブ 3000 回記念例会報告

横浜南ロータリークラブ会長 福本 学

横浜南ロータリークラブは、1月24日（土）ローズホテル横浜にて通算3000回記念オープン例会を開催しました。当日は87名（ゲスト30名、大塚ガバナーはじめビジター29名）の方々にご参加をいただきました。また、例会開催にあたりまして多くの方にご協力いただきました。ご参加ご協力いただいた皆様に感謝申し上げます。

今年度当クラブの合言葉「南のあたたかい風を多くの人に届けよう」のもと、多くの方に例会を体験していただき、まずはロータリーに関わっていただける関係人口を増やしたいとの思いで記念例会を開催しました。

卓話には元プロ野球選手の谷繁元信様とMCのバティ様をお招きし、私から谷繁様に質問をする対談形式で開催しました。谷繁様からは、経営に参考になるお話や現役・監督時代の突っ込んだお話をいただき、参加者から笑いが起こる楽しい卓話になりました。

懇親会では名刺交換が盛んに行われたり、旧交を深められたりと盛り上がりました。

当クラブは今年で創立65年目です。諸先輩方が例会を開催し続けてくださったからこそ今日があることに感謝しつつ、通算4000回までは長い道のりですが、例会を開催し続け横浜南ロータリークラブの新たな歴史を作っていくことへの思いを共有した一日でした。



MC バティ様

福本学横浜南 RC 会長

谷繁元信様



特別講師 谷繁元信様



会場の様子



横浜南 RC 記念例会集合写真

## ● 横浜日吉ロータリークラブ創立 30 周年記念式典並びに祝賀会の報告

横浜日吉ロータリークラブ会長 平 雅吉

横浜日吉ロータリークラブ創立 30 周年という節目の会長として振り返る記念式典と祝賀会は、過去と未来、そして様々なご縁を感じるひと時でした。出席した皆さんの表情を見渡しなが、30 年という年月が、地域に根ざした奉仕活動と多くの出会いによって紡がれたことを改めて噛み締めることができました。

記念誌では会員が築いてきた奉仕活動の歩みが紹介され、その積み重ねが私たちを支えていることを実感しました。またチャーターメンバーへの深い感謝と、次世代を担う会員の前向きな姿勢が交わる光景は、会長としてこの上ない誇りです。

印象深いのは駐日モンゴル国大使館公使参事官デルゲルマーさんのご講演です。米山奨学生として来日し、母国の発展に貢献しながら日本との平和の架け橋としてご活躍している姿は、ロータリー米山記念奨学会が大切にしてきた国際理解と親善そのものです。その心はロータリーの目的達成に寄与しているとあらためて教えられました。

祝辞やご挨拶の合間の笑顔や、乾杯の拍手に込められた温もりが、会場を包み、格式の中に親しみがあり、そして和やかな雰囲気、それが横浜日吉ロータリークラブの 30 年であり、これからも受け継いでゆくべき姿なのだと思います。

この祝賀会はこれまでの歩みを讃えると同時に、未来への約束を共有する場でもありました。地域への奉仕はもちろん、海外との交流にも心向け次の 10 年、その先へと続く奉仕の歩みを、仲間と共に着実に重ねていく決意を新たにしました。



平雅吉横浜日吉ロータリークラブ会長



デルゲルマー公使参事官



大塚正一ガバナー



轟淳次バスターガバナーとそのチーム



祝宴会員テーブル



横浜日吉ロータリークラブ創立 30 周年記念式典集合写真



## 他地区の地区大会に参加して③

国際ロータリー第2590地区ガバナー 大塚 正一

次の地区大会に参加してきましたので、そのご報告です。

### ⑬ 第2750地区（東京南部・PBG）：田中 靖ガバナー（2月6日～7日）

RI会長代理を招聘せずに、水野功RI理事を主賓としてお迎えしての地区大会でした。

初日の晩餐会はパレスホテル東京で開催、美味しい食事と川井郁子さんのバイオリンの音色に「参りました」としか言えない素晴らしい晩餐会でした。

二日目の本会議は、場所を一転し、立川市の立川スポーツガーデンで開催されました。当日は生憎の天候で、雪になり、参加者が減ってしまうのではと心配しましたが、多くの会員の方が参加されていました。

まず、青少年交換学生による関係各国の国旗掲揚から始まりました。国際大会の開幕のような感動的な演出でした。



その後の本会議は、1時間半を①ポリオ根絶、②環境、③平和の3つのセクションに分けて、それぞれ違った形で展開されました。

- ①「**ポリオ根絶**」：田中ガバナーとゲストの尾身茂氏の対談形式で開催、田中ガバナーのポリオ根絶への強い決意と献身が感じられました。
- ②「**環境**」：まずは6月6日に「スポゴミ」（ゴミ拾い競技）を有楽町で開催することが発表され、担当委員がお揃いのTシャツで登場、皆さんのチームとしての参加を呼びかけました。  
次に、インド出身のシンガーソングライター・TEAさん、環境問題を訴える歌はありませんでしたが、素晴らしい歌声が披露されました。
- ③「**平和**」：まずは、青少年交換学生の来日生・派遣生全員によるソーラン節が披露され、練習の成果が感じられました。そして、圧巻だったのは、この後の桑山紀彦氏（地球のステージ代表理事 <https://e-stageone.org/about/message.html>）によるパフォーマンスです。ウクライナ、ガザの戦火の映像が流れる中での、その語りと歌声に痺れました。ウクライナ、ガザの破壊された街、その瓦礫の中で泣き崩れる人々の映像に多くの参加者が涙しました。（その皆さんが涙した映像が流れる中、うちのパートナーは私の隣で居眠りしていました。驚くべき精神力です。（笑））

今回、私が強く感じたのは「地区大会」が「観に来る会員の方々」のことを最優先に考えて企画されているということです。ですので、地区の委員会に登壇してもらう時間はありませんでした。例えば、新会員紹介はスクリーンでの数字のみの紹介、米山奨学生・ロータリー財団奨学生は、代表1人だけが短いスピーチを行い感謝の気持ちを伝える、またローターアクト、インターアクトが登壇することもなく、地区大会プログラムにクラブ名が記載されているだけです。ただ、新たにできたインターアクトクラブだけは、登壇するのではなく、会場で起立する形で紹介されました。

地区大会を「地区関係者が登壇する」大会から「地区大会参加者に観せる（を魅せる）」大会に変えた素晴らしい大会だと感じました。

地区ローターアクト代表エレクト 角皆 玲央 (横浜南 RAC)

1月25日、全国地区 RA 委員長及び地区 RA 代表会議にて当地区 RA の取り組みについて発表をいたしましたのでご報告申し上げます。

会議には、RI 理事をはじめ、各地区のガバナー、地区ローターアクト委員長、地区代表が参加しました。各地域における活動事例の紹介が行われ、それぞれの取り組みや成果が共有されました。今回、第2地域を代表して、角皆が当地区の取り組みならびに横浜市立大学ローターアクトクラブ設立について発表しました。



(以下、発表内容の要旨になります)

現在、当地区 RA は今年度12月に誕生したばかりの横浜市大 RAC を含めて4クラブ総勢57名で活動しております。しかし、数年前までは実働人数が10名を切るという厳しい局面に当地区 RA はありました。コロナ禍という前例のない状況において、対面での例会が減っていく状況で、これまでと同じ活動を続けてしまったのが会員減少の大きな要因です。結果として、活動の停滞が起き退会者が増え、かつ新規入会者が伸び悩み、結果、人数が減り続けるという負の連鎖が起きていました。

そこで、再生に向けて2023-24年度より4つの新しい施策を行いました。

## ① タウンホール例会の導入

当時、地区内には会員が1、2名だけのクラブもあり、月2回の例会開催が困難な状況でした。そこでクラブ例会を月1回とし質の向上を図る一方、減った1回分を地区主導のタウンホール例会として開催いたしました。これにより、地区全体で交流機会を確保し、少人数クラブが孤立しない環境づくりを進めました。

## ② 地区横断型委員会の設置

会員数減少によりクラブ単位で委員会を組めない状況が生じていました。そのため地区横断型委員会を設置し、例会企画や運営ノウハウを地区全体で共有できる体制を整えました。クラブ間で知見を補完し合う仕組みづくりをしました。

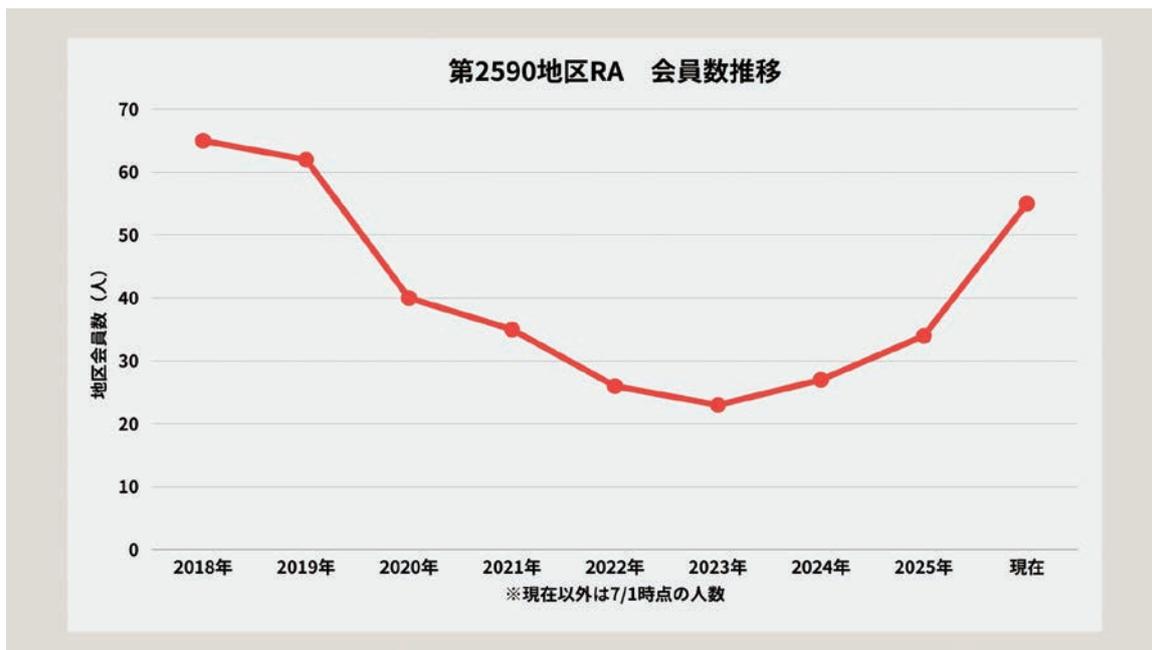
## ③ 地区行事の再検討

地区行事を精査し、数より質を重視する方針へ転換いたしました。行事数を抑えることで一つひとつに集中し、達成感と参加者のコミットメント向上を図りました。

## ④ 増強委員会の設置

従来は紹介に依存する傾向がありましたが、対面機会の減少を受け、外部募集媒体の活用および入会説明会の実施をいたしました。また、インターアクトとの連携を強化するため、インターアクト行事にローターアクターが積極的に出席し、直接ローターアクトの宣伝を行うようにいたしました。

以上、4つの試みを通して、会員数はコロナ禍前の水準にまで戻りつつあります。そして、今、地区の中に新たな風が吹いてきて、地区としてまた活発に動ける状態になったこと、それが私としてはとても嬉しく感じております。



次に、当地区の大学基盤ローターアクトクラブ設立についてご紹介いたします。

先日、横浜市立大学ローターアクトクラブの認証状伝達式およびチャーターナイトが執り行われました。大塚ガバナーをはじめ、多くのロータリアンならびにローターアクターが、新クラブ誕生の瞬間を見守りました。

新クラブは金儒燦（キムユチャン）会長率いる15名でスタートを切りました。スポンサークラブは横浜金沢八景ロータリークラブ、活動拠点は横浜市立大学金沢八景キャンパスです。当地区のクラブ設立は10年以上ぶりとなるため、各種申請やスポンサークラブ、大学、地区RC・RAの多数の関係各所との調整に相応の時間を要しました。また、チャーターメンバーも初対面同士が多く、雰囲気づくりにも一定の期間が必要だったことが苦勞した点として挙げられます。

最後に、大学基盤RAC設立を検討している地区に向けて、設立を通して重要と感じたことを共有いたします。まず重要なのは、人数よりも継続して関わる意思を持つチャーターメンバーを丁寧に集めることです。少人数であっても、核となる存在がいることが安定した運営につながります。また、初年度は「走りながら整える」という姿勢が現実的です。最初から完成形を目指すのではなく、試行錯誤を重ねながら基盤を築くことが重要です。また、地区や他クラブとの関わりは段階的に進めていくことが望ましいと感じました。例会への参加を重ねる中で理解を深めていくことが、メンバーの定着につながります。

本報告が、今後クラブ設立を検討される地区の参考となれば幸いです。

これから当地区は増「強」のフェーズに入り、整えた基盤の上で仲間を増やし、持続的な成長を目指してまいります。

(発表内容の要旨おわり)

発表後、大学基盤RAC設立を検討している地区のRA委員長より、詳しく話を聞きたいとお声がけをいただき、本発表が友好地区のクラブ設立の一助となったことが何より光栄でした。本発表が実現できましたのも、多くの皆様に多大なるご尽力を賜った結果であると感じております。ここに改めて、関係者の皆様へ心より御礼申し上げます。

今後とも、地区ローターアクトへの変わらぬご指導ご支援を賜りますよう、よろしく願い申し上げます。

スポンサー：横浜金沢八景RC  
 平均年齢：21.7歳  
 会員人数：15名  
 男子：4 / 女子：11

横浜市学部生：8名  
 横浜市大学院生：3名  
 他大学学部生：2名  
 他大学大学院生：1名  
 社会人：1名

2026年

3

月刊 No.09

あなたの未来に FROM THE ROTARACT

皆様こんにちは！横浜市立大学RAC副会長の桜田です。

当クラブは10月30日にRI認証を受けた

地区で最も新しい大学基盤のクラブです。

設立直後で実績や歴史はまだありません。

しかし、私たちには「迷う時間があるなら、まずは行動する」という圧倒的な機動力があります。この姿勢を強みに

ゼロから一歩ずつ実績を積み上げていく所存です。

まずは来年度の新歓活動で会員数50名を目標に掲げ

将来的にはさらに大規模な組織へと成長させ

地域を盛り上げていきたいと考えています。

新しく始まったばかりの未熟なクラブではございますが

副会長として全力で邁進いたします。

皆様のご支援とご協力をよろしくお願い申し上げます。

【新聞の作者】

横浜市立大学RAC

副会長

桜田康生



名前：金儒燦  
 出身：水原市（韓国）  
 趣味：旅行.カメラ.車.映画.ゲーム

会長紹介

名前：桜田康生  
 出身：国立市出身在住  
 趣味：:ゲーム.天体観測.運転練習

副会長紹介



0111\_IA年大



0128\_初回例会



1108\_地区大会

横浜市立大学RACってどんなクラブ？

## 地区同好会紹介⑧ 音楽同好会

代表世話人 長戸 はるみ (横浜東)

国際ロータリー第 2590 地区 音楽同好会は昨年 6 月に発足し、現在 20 名近い会員を数えるようになりました。

以来 10 月開催の「ロータリー希望の風 奨学金・チャリティーコンサート」には皆様へのお披露目を兼ねて受付のお手伝い参加、11 月の地区大会の同好会ブースでは会報 第 1 号を兼ねた記念パンフレットを配布させていただきました。続く 12 月、横浜みなとみらいホールで神奈川フィルハーモニー管弦楽団による「第九」の鑑賞会を催し、その後は参加者で音楽談義に満ちた忘年会を楽しみました。年の瀬にふさわしい曲目を聴き、「是非、音楽同好会恒例の年末行事に！」という声も多数聞かれました。

私たちの音楽同好会は楽器の演奏者ばかりの集まりではありません。音楽を聴くことが大好きな、多彩なジャンルのファンもたくさんいらっしゃいます。洋楽や邦楽、クラシックやポップスといった境を越え、さらには観劇にも活動の範囲を拡げて参ります。加えて今年は是非、当同好会自前の演奏会も開催したいものと、目下企画を進めております。

第 2590 地区のロータリアンを音楽や演劇の魅力で結び付け、互いのロータリーライフをより潤いに満ちたものにするための一助となる同好会に育てて参りたいと願っております。たくさんの音楽ファンのご参加を会員一同、心からお待ち申し上げております。

### ご入会お問い合わせ先

第 2590 地区音楽同好会幹事 下條 恵理子 (川崎中原 RC)

Email : mail@erikoshimojo.com



# 新会員のご紹介



**宇田川 領視**

(川崎南)

証券業

2026年1月20日入会



**仁平 かつえ**

(川崎南)

サービス業

2026年1月20日入会



**北見 好拡**

(川崎マリーン)

翻訳業

2026年2月5日入会



**佐藤 亮志**

(川崎西)

アパレル製造・販売

2025年11月28日入会



**廣 俊孝**

(横浜磯子)

液化酸素製造

2026年1月8日入会



**丸尾 なつ子**

(横浜金沢八景)

弁護士

2025年12月4日入会



**松野 具隆**

(横浜金沢八景)

建設業

2025年12月11日入会



**石井 知泰**

(横浜金沢八景)

資産運用、金融、不動産活用

2026年1月22日入会



**甲斐 誠**

(横浜金沢八景)

情報通信業

2026年2月12日入会



**工藤 圭亮**

(横浜保土ヶ谷)

建築工事業

2026年2月9日入会



**渡邊 伸幸**

(横浜保土ヶ谷)

建設業

2026年2月9日入会



## 訃報

～謹んでご冥福をお祈り致します～



**結城 光雄** (川崎百合丘)

令和7年12月18日 逝去

82才

1982年7月1日 入会

1999-2000年度 会長

ベネファクター、MPHF、

米山功労者メジャードナー



**平賀 泉** (横浜山手)

令和7年12月26日 逝去

75才

2000年8月2日 入会

2005-2006年度 幹事

2013-2014年度 会長

ベネファクター、PHF、

米山功労者

# 2026-27 年度 地区研修・協議会のご案内

今年度の地区研修・協議会は、横浜南陵 RC をホストクラブとして下記により開催致します。各クラブからの部門別出席者の方々は、事前に地区 HP に掲載される当該部門の動画（3月16日から配信予定）をご覧の上ご出席下さい。当日の分科会は討議形式となります。詳細は2月24日付発信の各 RC 宛てメールをご参照ください。

**日 時**：3月29日（日） 13：30～18：00（受付12：30～ 懇親会17：00～）

**会 場**：聖光学院中学校・高等学校

## ファシリテーター、サブ・ファシリテーター 一覧

部 門	ファシリテーター	サブ・ファシリテーター
① 会長	大塚 正一（川崎北）／宮田 彰久（横浜南）	川崎 智晴（横浜南）／牛山 裕子（川崎大師）
② 幹事	横山 芳春（川崎北）／青木 理（横浜南）	小林 正樹（川崎中原）／船木 拓志（横浜西）
③ クラブ管理運営 （会員増強、公共イメージ）	柳沼 芳光（横浜瀬谷）	渡邊 直人（川崎西）／帯谷 昌充（川崎北）／ 渡辺 直昭（横浜鶴見北）
④ 奉仕 （職業・社会・国際）	樋口 明（神奈川）	大野 勉（川崎麻生）／林 伸彦（川崎マリーン）／ 鈴木 武道（横浜戸塚）
⑤ 青少年奉仕	小倉 正（横浜）	佐藤 佳一（新横浜）／松田 啓（横浜鶴見北）／ 加藤 昌紀（川崎高津）
⑥ ロータリー財団	鈴木 慎二郎（川崎マリーン）	福與 暁夫（横浜戸塚中央）／峯岸 博之（横浜磯子）／ 櫻井 富美男（横浜山手）
⑦ 米山記念奨学	吉田 隆男（神奈川東）／長戸 はるみ（横浜東）	佐々部 宣宏（横浜港南）／板橋 克尚（横浜）／ 小野邊 薫（横浜あざみ）
⑧ 新会員 （入会3年未満）	谷川 公一（横浜西）	平 雅吉（横浜日吉）／水谷 透（横浜南）／ 鬼嶋 雄三（横浜都筑）

# 第 2590 地区美術親睦活動グループ 第 61 回ロータリアン展作品募集

私ども「第 2590 地区美術親睦活動グループ」は、1962 年の発足以来、美術という共通の趣味を通じた会員相互の親睦を目的に、ロータリアン展を開催してまいりました。

皆様のお力添えにより、本年で第 61 回を迎えることができました。この節目にあたり、全国の美術同好のロータリアンの皆様にも広くご参加いただき、作品発表と交流を通じて、さらに親睦の輪を広げたいと考えております。

本展を新たなご縁の場として、多くのロータリアンの皆様と交流を深められましたら幸いです。

皆様のご参加を、心よりお待ちしております。

**会 場** | GALERIE PARIS（ギャルリー・パリ）  
〒231-0021 神奈川県横浜市中区日本大通 14 旧三井物産ビル 1 階

**日 時** | 2026 年 4 月 17 日（金）～ 23 日（木）  
12 時～ 18 時 最終日は 17 時まで  
※交流会（オープニング・パーティー）2026 年 4 月 18 日（土）16 時～ 18 時

**参加費** | 無料

## お問い合わせ

第 2590 地区美術親睦活動グループ  
幹 事：五十嵐（横浜旭 RC）  
Email：t@igaprint.co.jp FAX：045-353-0088

## お申し込み



◀ こちらからお申込みください。

# 国際ロータリー第2590地区 2026年1月会員数報告 (RC・RAC)

グループ	クラブ名	例会数	会員数( )内女性				
			1月末日	年初7/1	本年度入会者	本年度退会者	本年度増減
1	川崎	3	59(4)	58(4)	3(0)	2(0)	1(0)
	川崎南	3	32(6)	29(4)	4(2)	1(0)	3(2)
	川崎幸	3	41(8)	40(8)	1(0)	0(0)	1(0)
	川崎大師	3	40(4)	42(4)	1(0)	3(0)	-2(0)
	川崎中央	3	43(12)	45(12)	0(0)	2(0)	-2(0)
	川崎マリーン	3	33(4)	33(4)	2(0)	2(0)	0(0)
	新川崎	2	17(2)	14(3)	4(0)	1(1)	3(-1)
	小計		265(40)	261(39)	15(2)	11(1)	4(1)
2	川崎北	3	50(11)	36(4)	15(7)	1(0)	14(7)
	川崎中	3	40(4)	39(4)	1(0)	0(0)	1(0)
	川崎鷺沼	2	27(2)	25(2)	2(0)	0(0)	2(0)
	川崎中原	2	22(3)	21(3)	1(0)	0(0)	1(0)
	川崎とどろき	2	14(3)	12(3)	2(0)	0(0)	2(0)
	小計		153(23)	133(16)	21(7)	1(0)	20(7)
3	川崎西	3	64(3)	62(3)	2(0)	0(0)	2(0)
	川崎西北	2	23(2)	23(2)	0(0)	0(0)	0(0)
	川崎百合丘	4	49(7)	49(7)	2(1)	2(1)	0(0)
	川崎高津	3	37(1)	34(0)	3(1)	0(0)	3(1)
	川崎麻生	3	25(1)	25(1)	0(0)	0(0)	0(0)
	川崎高津南	2	19(1)	17(1)	2(0)	0(0)	2(0)
	小計		217(15)	210(14)	9(2)	2(1)	7(1)
4	横浜東	4	50(4)	51(4)	0(0)	1(0)	-1(0)
	神奈川	3	34(4)	32(3)	3(1)	1(0)	2(1)
	横浜港北	3	38(7)	38(7)	1(0)	1(0)	0(0)
	横浜鶴見北	3	32(3)	32(2)	1(1)	1(0)	0(1)
	神奈川東	3	44(3)	46(3)	0(0)	2(0)	-2(0)
	横浜北	4	21(3)	19(2)	2(1)	0(0)	2(1)
	横浜都筑	4	32(2)	30(0)	2(2)	0(0)	2(2)
	横浜日吉	3	41(8)	38(7)	3(1)	0(0)	3(1)
	小計		292(34)	286(28)	12(6)	6(0)	6(6)

\*川崎北RC会員数の内訳

川崎北	3	38(4)	36(4)	3(0)	1(0)	2(0)
川崎北YOKOHAMAロータリー衛星クラブ	2	12(7)	0(0)	12(7)	0(0)	12(7)

グループ	クラブ名	例会数	会員数( )内女性					
			1月末日	年初7/1	本年度入会者	本年度退会者	本年度増減	
5	横浜南	4	41(4)	43(4)	0(0)	2(0)	-2(0)	
	横浜港南	4	29(4)	26(4)	5(1)	2(1)	3(0)	
	横浜旭	3	20(2)	20(2)	0(0)	0(0)	0(0)	
	横浜瀬谷	4	26(4)	25(2)	2(2)	1(0)	1(2)	
	横浜緑	4	24(4)	23(4)	1(0)	0(0)	1(0)	
	横浜田園	3	21(2)	20(0)	2(2)	1(0)	1(2)	
	横浜南陵	3	30(1)	30(1)	0(0)	0(0)	0(0)	
	新横浜	3	29(3)	29(4)	1(0)	1(1)	0(-1)	
	横浜あざみ	4	9(7)	9(7)	0(0)	0(0)	0(0)	
	横浜南央	3	36(4)	35(3)	1(1)	0(0)	1(1)	
	小計		265(35)	260(31)	12(6)	7(2)	5(4)	
	6	横浜	4	191(4)	184(2)	13(2)	6(0)	7(2)
		横浜磯子	3	18(2)	16(2)	4(0)	2(0)	2(0)
横浜金沢八景		3	36(11)	31(9)	5(2)	0(0)	5(2)	
横浜中		4	51(10)	52(10)	1(1)	2(1)	-1(0)	
横浜金沢東		3	28(2)	27(2)	1(0)	0(0)	1(0)	
横浜山手		3	23(6)	25(6)	0(0)	2(0)	-2(0)	
横浜ベイ		2	39(6)	38(6)	2(0)	1(0)	1(0)	
小計		386(41)	373(37)	26(5)	13(1)	13(4)		
7	横浜西	4	94(13)	85(13)	9(0)	0(0)	9(0)	
	横浜戸塚	3	42(5)	42(5)	2(0)	2(0)	0(0)	
	横浜保土ヶ谷	1	22(2)	22(2)	0(0)	0(0)	0(0)	
	横浜戸塚西	3	16(1)	16(1)	0(0)	0(0)	0(0)	
	横浜泉	3	21(2)	21(2)	1(0)	1(0)	0(0)	
	横浜MM21	2	31(1)	30(1)	1(0)	0(0)	1(0)	
	横浜戸塚中央	2	15(0)	16(0)	0(0)	1(0)	-1(0)	
	小計		241(24)	232(24)	13(0)	4(0)	9(0)	
合計		1819(212)	1755(189)	108(28)	44(5)	64(23)		

横浜南	1	23(11)	18(10)	6(2)	1(1)	5(1)
横浜	1	12(5)	9(5)	4(1)	1(1)	3(0)
ベイフロント横浜	1	5(0)	5(0)	0(0)	0(0)	0(0)
横浜市立大学	1	15(11)	0(0)	17(12)	2(1)	15(11)
合計		55(27)	32(15)	27(15)	4(3)	23(12)

クラブ数	会員総数 (7月1日現在 1,755名)	本年度入会者	本年度退会者	本年度会員増減数
50RC	1,819名 (内女性会員 212名)	108名	44名	+64名

クラブ数	会員総数 (7月1日現在 1,787名)	本年度入会者	本年度退会者	本年度会員増減数
50RC・4RAC	1,874名 (内女性会員 239名)	135名	48名	+87名